父太郎次、母マス。家農を業とす。謹直にして模範青年と稱せらる。明治四十四年六月志願兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈没の際戰死す。

宮城縣刈田郡荒雄村字坪四三

海軍一等機關兵　勳八等　大槻芳藏

明治二十三年七月十七日生

父源之助、母亡キツ。家農を業とす。明治四十三年六月志願兵として海軍に入り。大正三年十月十八日高千穗沈没の際戰死す。

千葉縣匝瑳郡豐畑村川口五六一

海軍一等機關兵　勳八等　渡邊寅之助

明治二十四年二月十日生

父友藏、母サト。鍛冶職たり。幼より勇壯にして、遊戯、必軍事に擬す。明治四十四年六月志願兵として海軍に入る。音樂の趣味あり。笛、尺八等を吹奏して自樂めり。大正三年十月十八日高千穗沈没の際戰死す。

群馬縣山田郡桐生町桐生二ノ一五〇

海軍一等機關兵　勳八等　加藤虎十郎

明治二十三年四月十五日生

父善次郎、母ミネ。家機業を營む。明治四十三年十二月徴兵として海軍に入る。航海中珍奇なる植物、礦石等を蒐集し、參考として郷里の小學校に寄贈せり。大正三年十月十八日高千穗沈没の際戦死す。

千葉縣君津郡中村泉九八八

海軍一等機關兵　勳八等　石原米藏

明治二十四年三月二十九日生

父甚藏、母リヨ。幼にして活潑、武術を好み、農事の餘暇、竹刀を振ふを樂とし、不二心流の目錄を受く。明治四十四年六月志願兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈没の際戦死す。

農手縣紫波郡佐比内村一五九

海軍一等機關兵　勳八等　山影與手松

明治二十四年一月二十五日生

父采助、農家に生る。出でて鍛冶職を就業中、明治四十四年十二月徴募兵として海軍に入る。大正二年十一月工術練習生として海軍工機學校入學を命ぜられ、同三年五月優等の成績を以て卒業す。日獨國交斷絶するや、高千穗に乘組みて出征し、同年十月十八日艦と運命を共にせり。

東京府東京市本郷區元町一ノ六

海軍一等機關兵　勳八等　水島與三

明治二十四年八月九日生

父仁太郎、母ソレ。蹄鐵工場に勤務せしが、明治四十四年十二月徴兵として海軍に入る。大正二年五月工術練習生として海軍工機學校に入學し、同年十一月首席を以て卒業す。大正三年十月十八日高千穂沈没の際戦死す。書道に巧にして、日本選書奬勵會より褒賞を受けしことあり。

愛知縣知多郡小鈴谷村坂井一五

海軍一等機關兵　勳八等　山本・角平

明治二十七年四月十五日生

父彌三郎、母イト。家は小作農たり。明治四十五年六月志願兵として海軍に入る。大正三年八月休暇歸省中電命に接し、訣別して出發するに際し、母より腹卷其他を與へられしに、快く之を受け、距ること二里餘の茶店に憩ひ、不要品を一括して返送し、勇躍して歸艦し、十月十八日乘艦高千穂と共に壯烈なる最後を遂げたり。

山梨縣東八代郡英村二五四

海軍一等機關兵　勳八等　埴原實

明治二十六年十二月二十一日生

父亮。家農を業とす。幼時より磊落にして然も氣節あり。嘗、財囊を遺失せし際、知人拾得して返付せしに、「一旦我身を離れたるものは我所有にあらず。天の足下に與へしなり」とて、手にせざりきとぞ。明治四十五年六月志願兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穂沈没の際戦死す。

宮城縣志田郡荒雄村字坪四三

海軍一等機關兵　勳八等　青沼武喜

明治二十七年五月十九日生

父直治、母シモ。家農を業とす。幼より氣概あり。明治四十五年六月父母に請ひて志願兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈沒の難に殉す。

千葉縣印旛郡根郷村六崎一〇七二

海軍一等機關兵　勳八等　長澤丞作

明治二十七年七月十五日生

父庫藏。家農を業とす。幼より長上を敬し、友誼に厚かりき。明治四十五年六月志願兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

鳥取縣伊達郡保原町赤橋

海軍一等機關兵　勳八等　菅野周治

明治二十五年四月十三日生

父民之助、母トヨ。家農を業とす。東京に出でて機關學を修得し、歸郷後奥羽電氣株式會社に勤務す。明治四十五年六月志願兵として海軍に入り、歸郷の際は青年に講話を試みて、海事思想の普及に努めたり。大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。父兄共に擊劍に達す。

愛知縣西加茂郡畢母村畢母三四

海軍一等機關兵　勳八等　加藤恒美

明治二十七年五月二十五日生

父安吉、母レイ。幼年より敏捷にして海上生活を好み、神戸汽船喜代丸の船員たり。明治四十五年六月志願兵として海軍に入る。大正三年九月出征に際し、「殊勳を樹つるにあらざれば再相見えず」と、壯語せしが、同十月十八日高千穂沈没と運命を共にす。

栃木縣下都賀郡水代村西水三六

海軍一等機關兵　勳八等　田村朝治

明治二十四年六月二十九日生

父哲三郎、母亡サハ。祖父克己夙に勤王の大義を唱へ、明治維新の際志士と共に老職安藤對馬守を坂下門外に要撃し、終に捕はれて獄中に憤死す。朝治、幼より精悍、力量亦群を抜く。栃木中學卒業後、父を助けて請負業に従事したるが、明治四十四年十二月海軍に採用せられ、大正三年十月十八日高千穂沈没の際戰死す。

愛知縣寶飯郡三谷村二鉢三〇

海軍一等機關兵　勳八等　鈴木伊代吉

明治二十四年一月二十三日生

父嘉平、母タミ。父兄を助けて漁業に従事せしが、徴兵檢査の際甲種合格となるや、志願して海軍に入る。大正三年十月十八日高千穂沈没の際戰死す。

栃木縣芳賀郡清原村氷室四六五

海軍一等機關兵　勳八等　增淵三郎

明治二十四年二月二十七日生

父亡四郎平、母トミ。家農を業とす。年少商家に仕ふ。恪勤精勵群を抜き、遂に店主の認むると

ころとなりて、分舗の主管となる。明治四十四年十二月徴兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈没の際戦死す。

三重縣度會郡御園村上條二八

海軍一等機關兵　勳八等　奥田善四郎

明治二十四年三月二十二日生

父仙太郎。家農を業とす。明治四十四年十二月、鍛冶職練習中、徴されて海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈没の際戦死す。

三重縣志摩郡答志村二五九

海軍一等機關兵　勳八等　小林四十七

明治二十四年三月五日生

漁業の家に生れ、幼時より機械に趣味を有し、町立造船徒弟學校通學の傍、鐵工所に勤務す。後東京月島機械製作所に轉じたりしが、明治四十四年十二月徴兵として海軍に入り。大正三年十月十八日高千穗沈没の際戦死す。

群馬縣吾妻郡原町二九四

海軍一等機關兵　勳八等　新井定古

明治二十四年五月五日生

父折作、幼にして母を失ひ、繼母に事へて孝。家計の衰微を慨し、父を助けて農蠶業に努力し、明治四十四年海軍に出身の際には、既に負債を償還して若干の蓄積を爲せりと云ふ。大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。新井家代々孝子を出し、藩主より賞を受けしものもありきと云ふ。

千葉縣海上郡銚子町ロノ二四四

海軍一等機關兵　勳八等　信太金次郎

明治二十七年三月十八日生

父亡藤七、母ヨシ。雜貨商を營む。幼年より海軍軍人たらんと志し、常に豫修を怠らず、銚子汽船株式會社の雇員となる。明治四十五年六月志願兵として入團す。自信頗强く、艦友の共に撮影せんと誘ふごとに、他日志を得て單身影寫せんとて拒むを常とせり。大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

北海道石狩國空知郡砂川村一ノ澤

海軍一等機關兵　勳八等　武田保治

明治二十六年三月五日生

父兵助、母セイ。家農を業とす。幼年より活潑にして氣概あり。明治四十五年六月志願兵として海軍に入る。時々書を寄せて家弟を勵まし、海軍出身を勸めたり。大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。弟彥三郎、亦志願兵として海軍に出身せり。

岩手縣西磐井郡金澤村字北町五五

海軍一等看護　勳八等　阿部末之進

明治二十二年十二月十九日生

父良平、母ミナ。家鍛冶を業とす。家業の餘暇學問の自修に力む。明治四十三年六月志願兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

茨城縣鎮壁郡下館町二九六

海軍一等看護　勳八等　田谷彌三郎

明治二十四年五月二十四日生

家は木綿問屋にして、父喜七郎は、下館足袋底木綿同業組合長たり。資性惇樸にして飲酒喫煙の癖なし。明治四十四年十二月徴兵として海軍に入る。大正元年母重患の際歸郷し、看藥看護に努め、隣保を感ぜしむ。大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

父利藏。幼より溫厚にして學を好む。明治四十四年六月志願兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

岐阜縣吉城郡白山村稻置二一二

海軍一等主厨　勳八等　阿部長之助

明治二十二年十月二十四日生

十二歲にして母を失ひ、十七歲にして又父を喪ふ。崎島水產學校を卒へ、亡父の遺業を繼紹して

三重縣志摩郡布施田村七六三

海軍一等主厨　勳八等　田畑文太郎

明治二十二年十二月十六日生

鋭意水産物製造に從事し、且能く祖父母を慰めたり。明治四十四年適齢に達し、合格するや、志望により海軍に採用せられ、大正三年十月十八日高千穂沈没の際戦死す。

静岡縣田方郡中郷村玉川三

海軍一等主厨　勲八等　風間邦太郎

明治二十四年五月十四日生

父佐吉、母チヨ。活潑にして氣概あり。明治四十四年六月父母に請ひ、志願して海軍に入り、大正三年十月十八日高千穂沈没の際死戰す。

石川縣石川郡押野村字八日市新保七七

海軍二等水兵　勲八等功七級　山村與吉

明治　年　月　日生

父與三吉。家農を業とす。資性溫順にして容貌婦女子の如し。而も沈勇にして克己心强く、克く艱難に耐ゆ。村學を出でて、夙に海軍に志あり。明治四十五年六月志願兵として鶴舞海兵團に入る。其砲術學校在學中、野砲演習の際、途中落伍者相踵ぎ、能く續くもの稀なり。獨り與吉堅忍奮勵、最後に至るまで屆せず、其目的地に達し、始て昏倒せり。爾來深く上官の注目する所となる。大正三年の役、海軍重砲隊に屬し、九月廿九日勞山灣に上陸し、十月一日より河東柳樹臺の嶮を越え、砲床材料の運搬に從事し、幾多の危險を冒して孤山陣地に進入し、敵彈雨飛の下に立ち迅速射擊準備の完成に努め、同十七日以來、敵艦「カイゼリン、エリサベス」及敵砲臺に對し砲戰を開始し、奮戰苦鬪中、十八日午前十一時五十分敵彈の爲、下腹部を貫通せられ、臟腑露出し人事

不省に陷りたるも、猶、固く運搬中の彈丸を抱きて放さず。直に應急手當を受け、更に鹽灘なる衛生本部に送らる。軍醫の手術中も神色自若として、只、「大丈夫です〳〵」と連呼するのみ。其將に瞑せんとするや、戰友枕頭に立ちて遺言を問ふ。曰く、「今更何をか思ひのこさん、只、平素父に誓ひし言を實行せずして、死するが殘念なり」と。語り終りて終に瞑す。父與三吉、亦凡ならず。與吉戰死の報に接するや、以て家門の榮なりとし、「これにて聊國恩の萬一に報ずるを得たり」と。弔客に接して毫も愁色を表はさず。見る人感動せざるなし。又、恩賜の全部を投じて與吉の爲に、一碑を鄕里に建つ、文を當年の教官松本大尉に請ふ。大尉更に當時の校長東鄕少將に懇請す。少將亦與吉の平生を知るもの、慨然として之を諾し、特に起稿して之を寄與せりといふ。

群馬縣群馬郡東村江田村四五

海軍二等水兵　勳八等　富澤荒太郎

明治二十八年一月三十一日生

父政吉、母モヨ。家業を業とす。幼年より豪膽にして耕耘の餘暇、書を讀み、體操をなして心身の强健を圖り、大正二年六月志願兵として海軍に入る。海兵團卒業には六百餘名中の第三席を占め、普通科信號術練習教程も第一位を以て卒業せり。大正三年四月高千穗乘組を命ぜられ、十月十八日膠州灣外に哨戒勤務中、艦と運命を共にせり。次兄千三郎亦海軍兵たり。

茨城縣東茨城郡下大野村鹽崎六四

海軍二等水兵　勳八等　高橋誠二

明治二十八年九月十七日生

父三次郎、母サキ。家は農を營む。幼年より詞藻に富み、彫刻を嗜む。大正二年六月志願兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

父庄五郎。家農を業とす。幼より進取の氣風あり。大正元年十二月徴募兵として海軍に入る。日獨國交斷絶するや、生還を期せず。死後在郷軍人會へ金品寄附の事を家兄に依託して出征せしが、同三年十月十八日遂に乗艦高千穗沈没の難に殉したり。

静岡縣賀茂郡稲取村三六

海軍二等水兵　勳八等　山田富藏

明治二十五年十月三十日生

愛知縣知多郡小鈴谷村大谷六八ノ二

海軍二等水兵　勳八等　永田若太郎

明治二十四年十二月廿三日生

父房吉、母エイ。農兼漁業を營む。幼年より海上生活を好み、十四歳にして神戸に赴き、水夫見習として大阪商船の鐵嶺丸に乗組み、同船の朝鮮近海に沈没せし際、危く死を免れ、更にメキシコ丸に轉じ、二等舵夫となり、米國航路に勤務せしが、明治四十五年十二月徴兵として海軍に出身す。大正三年十月十八日高千穗沈没の際戰死す。

福島縣岩瀬郡西袋村西川仲屋敷一九

海軍二等水兵　勳八等　圓谷重吉

明治二十六年一月四日生

父全重。農を業とす。重吉年少家をいで、仙臺遞信管理局通信生養成所を卒業して、通信事務に從事せしが、大正二年六月志願兵として海軍に入り、同三年十月十八日高千穗沈没の際戰死す。

新潟縣佐渡郡澤根町五十里一〇〇

海軍二等水兵　勳八等　渡邊勘太郎

明治二十九年一月二十三日生

父春藏は、桶工にして、母ケイは魚類行商を營む。北海道に漁業をなしし、大正二年六月志願兵として海軍に入る。同三年歸省中電命に接し、「戰死の報あらば喜んで祝せられよ」と。豪語して歸艦せしが、十月十八日高千穗沈沒の際戰死せり。

山梨縣北巨摩郡穴山村一〇九

海軍二等水兵　勳八等　守屋常造

明治二十七年二月二十六日生

父久太郎、母フサ。家農を業とす。幼時頑蒙にして惡戲、屢人を困めしが、長するに及び豹變して恪謹となり、晝間は殆二人分の勞働をなし、暮夜書を繙いて時の移るを知らず。大正二年六月志願兵として海軍に入る。大正三年八月出征に際し、鄕里に書を寄せて、「身は海底に沈むとも、魂は滅びずして父母を護らん」との一言を殘す。十月十八日乘艦高千穗と共に壯烈なる最後を遂げたり。

宮城縣志田郡敷玉村青生一六七

海軍二等水兵　勳八等　高橋晴雄

明治二十六年八月三十一日生

父勝見。家農を業とす。幼より溫厚にして、嘗、人と爭はず。大正二年六月志願兵として海軍に入り、同三年十月十八日乘艦高千穗沈沒の難に殉す。

三重縣員辨郡神田村山田二、〇五七

海軍二等水兵　勳八等　水谷周第

明治二十八年三月八日生

父周三郎、母亡カメ。蠶業に熱心にして郡立講習所の助手たりしことあり。大正二年六月志願兵として海軍に入る。三年三月伊勢灣方面來航の際、暇を得て亡母の墓を展せり。大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

埼玉縣入間郡太田村池邊二六

海軍二等水兵　勳八等　川田勝太郎

明治二十六年二月一日生

父善太郎、母リン。家農を業とす。幼より慧敏、村學毎に首席を占む。大正二年六月志願兵として海軍に入り、翌三年十月十八日、乘艦高千穗と運命を共にす。

山梨縣東八代郡境川村八八

海軍二等水兵　勳八等　落合判伯

明治二十六年十月十五日生

父清太郎。農蠶業を營む。幼より勇壯にして海軍兵たらんと欲し、大正二年六月志願兵として海軍に入り、同三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

青森縣下北郡田名部町關根

海軍二等水兵　勳八等　星　重　信

明治二十九年九月廿三日生

父長松、母ノイ。農を業とす。家は會藩の士族にして、祖父隆左衛門は劍客なりき。幼年より氣概あり。大正二年六月志願兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

三重縣一志郡米ノ庄村久米六七

海軍二等水兵　勳八等　藤　村　佐　藏

明治二十五年十一月三十日生

父春吉、母ハキ。家農を業とす。明治四十五年六月志願兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

宮城縣宮城郡廣瀨村上愛子二四

海軍二等水兵　勳八等　庄　子　甚　五　郎

明治二十五年二月十日生

舊姓佐藤、出でて多利藏の養子となり、庄子姓を冒す。着實にして能く養父母を安んず。大正元年十二月徴募兵として海軍に入り、同三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

東京府南葛飾郡鹿本村鹿骨九七三

海軍二等水兵　勳八等　石井辰藏

明治二十五年八月十六日生

父八郎右衛門。幼にして母を喪ふ。勤直にして農事を勵みたりしが、大正元年十二月徴兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈没の際戰死す。

愛知縣海部郡南陽村福田二〇二

海軍二等水兵　勳八等　加藤萬太郎

明治二十五年九月二十日生

父勝助、母マス。敢爲の氣象あり。父と共に渡船を業とせしが、大正元年十二月徴募兵として横須賀に入團し、同三年十月十八日高千穗沈没の際戰死す。

山梨縣中巨摩郡芦安村三一

海軍二等水兵　勳八等　森本森一郎

明治二十五年九月十日生

父保一郎。農家に生る。志操堅實にして至孝。村青年會の中堅として風紀の改善に努む。大正元年十二月徴募兵として海軍に入り、同三年十月十八日高千穗沈没の際戰死す。

三重縣河藝郡若松村南若松三四九

海軍二等水兵　勳八等　中川喜藏

明治廿五年十一月十五日生

亡父喜三松は大工職たりき。幼年にして海上生活を好み、叔父武田某に隨ひて伊勢灣廻航の商船に乘組み、後横濱に出で、臺灣漁業船總睿丸の船員たりしが、大正元年十二月徴兵として海軍に入る。大正三年八月歸省中、召電に接し、勇躍して歸艦せしが、十月十八日乘艦高千穗と運命を共にす。

群馬縣碓氷郡八幡村鼠崎九四九

海軍二等水兵　勳八等　櫻井袈裟治

明治廿五年二月廿九日生

幼年にして父母を亡ひ、廻漕店に勤務す。大正元年十二月徴募兵として海軍に入る。大正三年九月二十五日、郷里に告別の書を寄せて出征したりしが、十月十八日高千穗と運命を共にせり。

三重縣志摩郡長岡村千賀一七二

海軍二等水兵　勳八等　片山峯松

明治二十五年二月四日生

農家に生れ、耕耘暇あれば、運送船に雇はれて近海を航行す。大正元年十二月徴募兵として海軍に入り、同三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。資性溫順にして人に愛せらる。家兄傳吉曾て陸軍歩兵として、三十七、八年日露大戰に參加して功あり。軍曹に進み勳七等に叙せらる。

宮城縣宮城郡七郷村南小泉八三

海軍二等水兵　勳八等　丹野長治

明治廿四年十二月五日生

家農を業とす。幼にして父を亡ひ、母リンに養育せらる。二兄共に軍人たるを以て、海軍に入らんと志し、大正元年志願兵として入團し、大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

埼玉縣北埼玉郡大越村外野二六

海軍二等水兵　勳八等　田部井善藏

明治二十五年六月七日生

父庄太郎、母クラ。家農を業とす。質朴にして學を好む。大正元年十二月徵募兵として海軍に入り、同三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

茨城縣筑波郡谷田部町谷田部二、九八九

海軍二等水兵　勳八等　永田禎三郎

明治二十五年五月十四月生

父常吉、母セン。町役場書記として勤勉の聞えあり。大正元年十二月徵されて横須賀海兵團に入り、同三年十月十八日高千穗沈沒の難に殉す。

三重縣南牟婁郡荒坂村須野浦一一

海軍二等水兵　勳八等　濱口幸太郎

明治廿五年七月十五日生

幼年にして父母を喪ひ、祖母に撫育せらる。木挽を職とし、眞摯にして隣里に信用せらる。大正元年

十二月徴兵として海軍に出身し、大正三年十月十八日高千穂沈没の際戦死す。祖母ウタ八十四歳にして猶矍鑠たり。

東京府西多摩郡調布村下長淵九九

海軍二等水兵　勲八等　中丸信貴

明治廿五年四月二十日生

父若藏、母ツネ。家農を業とす。丁年徴募兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穂沈没の際戦死す。兄和助は明治三十七、八年の役、旅順口方面に戦死し、功七級金鵄勲章を下賜せられたりと云ふ。

埼玉縣大里郡男沼村小島九八

海軍二等水兵　勲八等　梶塚清次郎

明治二十五年四月四日生

胎中に在つて既に父を亡ひ、母ナミに鞠撫せらる。母に事へて至孝。兄福次郎を助けて農事を勵みしが、大正元年十二月徴兵として海軍に出身し、同三年十月十八日高千穂沈没の際戦死す。

千葉縣山武郡鳴濱村白幡一、二二九

海軍二等水兵　勲八等　川島考三

明治二十五年八月九日生

父太左衛門。家農を業とす。質朴にして能く父に事ふ。大正元年十二月徴募兵として海軍に入

り、同三年十月十八日高千穂沈沒の際戰死す。

新潟縣古志郡新組村大字鷄鳥六三

海軍二等水兵　勳八等功七級　古川久治郎

明治二十五年二月一日生

父寅藏、母キイ。家農を業とす。父寅藏陸軍歩兵上等兵にして、日清、日露の戰役に從軍す。久治郎、溫厚にして至孝。農事の餘暇學問の自修に力め、丁年採用せられて海軍に入る。大正四年三月十五日臨時青島防備隊附屬第一敷設艇に乘組み膠州灣外に掃海作業中、乘艇沈沒の難に殉す。

新潟縣西蒲原郡峰岡村大字仁箇二三

海軍二等水兵　勳八等功七級　大橋佐次郎

明治廿五年三月十三日生

父作市、母ノヨ。農を業とす。性溫順篤實にして克く父母に事ふ。青島滯陣中も、努めて冗費を省き、家計に資したりといふ。丁年海軍に入り、大正三、四年戰役に從ひ、臨時青島防備隊に屬し、所屬第一敷設艇に乘組み、膠州灣外に於て掃海に從事中、大正四年三月十五日同艇爆沈の際戰死す。

宮城縣牡鹿郡石巻町門脇後町五五

海軍二等木工　勳八等　佐藤　嶽

明治廿四年十二月二日生

父金五郎、母ミノ。父は杜氏を業とす。幼より海軍出身を希望し、鑵釜造船所に勤務せしが、大正元年十二月徴兵として入團す。大正二年歸省の際、偶家弟の病むあり。直に病院に送り、歸艦後月俸の半を割きて醫藥の資とし、八ヶ月の久しきに亙る。以て友愛の情篤きことを知るべし。大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

三重縣志摩郡鵜方村五一

海軍二等木工　勳八等　西崎健三

明治二十六年三月十五日生

父與四郎。家農を業とす。大工を職とせしが、大正二年六月志願兵しとて海軍に入り、同三年十月十八日高千穗沈沒の際陣歿す。

鹿兒島縣日置郡伊作村湯ノ浦五七七

海軍二等機關兵　勳八等功七級　鎭守喜藏

明治二十五年八月一日生

父助太郎、母マツ。家農を業とす。資性溫順、大工徒弟たりしが、大正元年十二月徴兵として海軍

に入る。日獨開戰となるや、第三長門丸乘組を命ぜられ、勞山灣外に掃海勤務中、敵水雷の爆發に會ひ、艇と其運命を共にす。時に大正三年九月三十日、

千葉縣長生郡豐田村登一二六

海軍二等機關兵　勳八等　板倉　豐

明治二十六年十月十一日生

父条二郎、母クラ。家農を業とす。資性溫厚、聘せられて村學に教鞭を執りしが、大正二年六月志願兵として海軍に入り、仝年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

宮城縣黑川郡宮床村宮床七四

海軍二等機關兵　勳八等　赤坂捷吾

明治二十八年七月二十五日生

父運助、母ツヤノ。家農を業とす。快活にして義氣あり。その村學卒業記念として學校林設置の際の如き、晝夜を分たず斡旋奔走し、人をして感ぜしめたり。大正二年六月志願兵として海軍に出身し、翌三年十月十八日高千穗沈沒の難に殉す。

宮城縣仙臺市看町八一

海軍二等機關兵　勳八等　春日武雄

明治二十六年十月十一日生

小畑条四郎の男にして、養はれて春日姓を冒す。溫厚謹直、鋸の製作に從事せしが、大正二年六月志願兵として海軍に入り、翌三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

茨城縣結城郡豐加美村加養一三九

海軍二等機關兵　勳八等　國府田平治

明治二十七年八月十五日生

父豐治、母タキ。家農を業とす。性快活、夙に海軍出身を望み、大正二年六月採用せられて横須賀海兵團に入り、翌三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

千葉縣山武郡山邊村金谷鄕一、六九四

海軍二等機關兵　勳八等　山下博

明治二十九年五月九日生

父仲次郎、母ヒデ。家農を業とす。大正二年六月素志に基き、志願兵として海軍に出身す。大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死せり。兄喜代七は陸軍砲兵第十六聯隊にあり。

千葉縣長生郡日吉村櫻谷三八九

海軍二等機關兵　勳八等　阿部嘉英

明治二十九年八月一日生

父七三良、母ツル。家農を業とす。幼年より沈毅にして海軍兵たらんと志し、大正二年六月志願

兵として入團し、大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

鳥取縣西白河郡川崎村太田川居平二九

海軍二等機關兵　勳八等　久保木爲丸

明治廿八年六月十八日生

父兵四郎、母イネ。幼にして叔父爲藏に養はる。詞藻に富み、小學校在學中、韻文の修業旅行記を教育品展覽會に出陳せしことあり。明治四十五年六月志願兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

茨城縣結城郡江川村東茂呂二〇

海軍二等機關兵　勳八等　一ツ木美喜三郎

明治二十六年六月十日生

父亟右衛門。家農を業とす。資性溫厚にして學を好む。大正二年一月一日獨斷を以て海軍に志願し、事後父の許を得たり。仝三年六月採用せられて横須賀に入團し、仝年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

群馬縣北甘樂郡小野村上高尾甲一、〇一五

海軍二等機關兵　勳八等　田島仲重郎

明治二十六年一月十日生

父初五郎、母シノ。農家に生る。志操堅實にして至孝。嘗て孝經を讀み、「身體髮膚之を父母に受く、敢て毀傷せざるは孝の始なり。身を立て道を行ひ、名を後世に揚ぐるは孝の終なり」の句に至るや、沈思默考之を久しうし、深く感憤するところあり。明治四十五年六月志願兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

栃木縣那須郡伊王野村東名崎八

海軍二等機關兵　勳八等　室井文彌

明治二十五年一月八日生

父欣太郎、母モト。家農を業とす。溫順にして然も克己心に富む。大正元年十二月徵募兵として海軍に入り、仝三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

青森縣北津輕郡長橋村野里三六

海軍二等機關兵　勳八等　須藤四郎

明治二十五年二月十七日生

父元吉、母チヨ。家農を業とす。幼年より海軍軍人たらんと欲し、郡立農學校卒業後、大湊要港部修理工場水雷工見習となり、恪勤、精勵、模範職工と稱せらる。大正元年十二月徵兵として海軍に入り、大正三年十月十八日乘艦高千穗と運命を共にす。戰死の報到るや、工場役員三十餘名、通夜して哀悼の意を表せりと云ふ。

千葉縣香取郡神代村窪野臺六四〇

海軍二等機關兵　勳八等　伊藤京次郎

明治二十五年十一月七日生

父庄助、母エイ。家農を業とし中産を有す。幼年より海軍軍人たらんことを望み、豫修として日本郵船會社汽船大和丸の火夫となり、大正元年十二月徴兵として海軍に入る。常に語つて曰く、「長兄能く父母に仕へ、家を理む。余は一意奉公を完うせんのみ」と。大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

茨城縣多賀郡河原子町三九九

海軍二等機關兵　勳八等　友部芳之助

明治二十五年五月十日生

父常七、母ハル。漁業を營む。大正元年十二月徴兵として海軍に出身し、大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。長兄金吾は陸軍歩兵にして、次兄酉太郎は海軍一等機關兵たり。

愛知縣名古屋市南區熱田內田町一八

海軍二等機關兵　勳八等　菊田藤太郎

明治二十五年五月十九日生

父鎌助、母ジャウ。父は港務所の火夫たり。優等の成績を以て小學を了へ、船員となりて就業中、

大正元年十二月採用せられて海軍に入り、全三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

宮城縣名取郡六鄕村二木二二

海軍二等機關兵　勳八等　庄子長二郎

明治二十四年十一月　九日生

幼にして父を喪ひ、母ナカに訓育せらる。友愛の情に厚く、學校の成績常に優等なりき。大正元年十二月徵募兵として海軍に入る。歸鄕の際青年を集めて海上生活の談話を試み、海軍思想の喚起に努めたり。大正三年十月十八日乘艦高千穗沈沒の難に殉す。

東京府東京市芝區片門前二ノ二八

海軍二等機關兵　勳八等　野田藤吉

明治二十五年十一月二十三日生

父文次郎。寡言にして勤勉。工手學校に入りて電氣工學科を修得し、東京電燈株式會社水力部技手勤務中、大正元年十二月徵募兵として海軍に入り、同三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

山梨縣南都留郡瑞穗村三一四

海軍二等機關兵　勳八等　萱沼正明

明治二十五年三月五日生

機織業の家に生る。父由藏、明治二十七、八年の役臺灣混成枝隊に編入せられ、各地に轉戰して基隆

に仕る。正明時に三歳。母ヨシの庭訓によりて成長す。人と爲り溫厚にして思慮あり。推されて修正會を司り、青年の矯風に努む。大正元年十二月徴されて海軍に入り、同三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

千葉縣夷隅郡清海村鵜原一、二〇六

海軍二等機關兵　勳八等　生貫彦三郎

明治二十四年十二月十一日生

父百造。漁業を營む。幼にして穎悟、儕輩に推重せらる。專心鰹節製造に從事せしが、大正元年十二月徴兵として海軍に入り、同三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

埼玉縣兒玉郡神保原村忍保五五一

海軍二等機關兵　勳八等　松本梅藏

明治二十五年一月七日生

父萬藏、母キク。父を助けて農蠶業に精勵し、傍、村青年會に盡瘁す。大正元年徴兵檢査の結果、海軍機關兵に當籤するや「海軍は一層望むところなり」と、勇躍して入團す。大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

神奈川縣久良岐郡日下村栗木四〇四

海軍二等機關兵　勳八等　西山重市

明治二十五年三月十一日生

父仙太郎、精米業を營む。志操堅實にして鋭敏、夙に電氣工業を習得せんと志し、明電社の職工となり、終日職務に精勤し、歸れば夜學に通ひて苦學せり。大正元年十二月徴募兵として海軍に入り、同三年十月十八日高千穗沈沒の難に殉す。

茨城縣那珂郡村松町白方七二

海軍二等主厨　勳八等　澤畠冬五郎

明治二十七年二月二十日生

父千太郎、母キク。水車業を營む。勞働の傍學問自修怠らず。大正二年六月志願兵として海軍に入る。大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

北海道十勝國中川郡幕別村白又村南二線東六七

海軍二等主厨　勳八等　三好梅次

明治二十五年三月二十三日生

父善吉、母ツネ。家農を業とす。幼年より緻密にして勤儉、小學校在學中貯金五拾圓に達せり。明治四十五年六月志願兵として海軍に入る。歸郷に際し、三ヶ年間の日記と出納簿とを父に示し、又入團後の受信は一も失ふことなく保存せり。大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

巖手縣膽澤郡古城村古城一八二

海軍二等主厨　勳八等　鈴木喜吉

明治二十五年八月二十四日生

父を慶吉といふ。喜吉爲人、朴直にして學を好み、海産物商に雇はれ信用厚かりき。大正元年十二月徴募兵として海軍に入り、同三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

宮城縣黑川郡大谷村不來內泉田二三

海軍二等主厨　勳八等　高橋七三郎

明治二十五年九月二十四日生

父正之助、母リツ。家農を業とす。父劍道を好み、近村青年を敎授す。其感化を受け、幼年より尙武の氣風あり。大正元年十二月採用せられて海軍に入る。大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。次兄正次、亦海軍主厨たり。

福島縣相馬郡高平村泉寺家前三七九

海軍三等水兵　勳八等　鈴木德

明治二十七年三月八日生

父長之助、母サダ。家農を業とす。幼年より海員たらむと志し、汽船千代丸の船員となり、明治四十三年以來、毎年機關兵を志願せしも、要員超過のため採用に洩れしが、大正二年更に水兵を志願して望を達し、勇躍して入團す。大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

新潟縣北蒲原郡長浦村里飯野一八

海軍三等水兵　勳八等　藤田末次

明治廿七年六月十三日生

父權八、母マス。家農を業とす。幼時より活潑にして氣概あり。出火洪水等の急事には、挺身衆に率先するを常とせり。大正二年六月志願兵として海軍に入る。勤務の餘暇俳句を嗜み、又角力を好む。大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

福島縣伊達郡藤田村山崎中島四六

海軍三等水兵　勳八等　吉田與一

明治二十八年十一月十日生

佐々木與助の男にして、後吉田家を繼ぐ、資性溫厚熱心農家に從事せしが、大正二年六月志願兵として海軍に入り、翌三年十月十八日高千穗沈沒の難に殉す。

宮城縣志田郡鹿島桑村廣長五〇

海軍三等水兵　勳八等　今野光畠

明治二十七年九月二十二日生

父光遠。家農を業とす。長兄光眞は陸軍に徵募せられ、次兄丙馬は海軍に出身す。光畠幼より氣概あり。大正二年六月父に請ひ志願兵として海軍に入り、翌三年十月十八日高千穗沈沒の難に殉す。

東京府北豐島郡巢鴨町宮下

海軍三等水兵　勳八等　山口高次

明治二十五年五月二十六日生

幼にして父市造を喪ひ、母トメに鞠育せらる。兄徳藏は製本を業とす。明治四十五年六月志願兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

千葉縣東葛飾郡我孫子新田五七

海軍三等水兵　勳八等　嶋根繁藏

明治二十六年七月二十一日生

父仙太郎、母マサ。謹直にして質店に奉公せしこと七年。大正二年六月志願兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。義兄三平は明治三十七、八年戰役に從軍せり。

東京府北豐島郡志村西臺一、五五九

海軍三等水兵　勳八等　內田爲五郎

明治二十六年四月五日生

幼にして父を失ひ、母カウの養育を受く。質朴にして農事を勵みたりしが、大正二年十二月徵募兵として海軍に入り、翌三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

福島縣相馬郡高平村上北高平入迫五六六

海軍三等水兵　勳八等　德野將雄

明治二十六年七月五日生

父與七、母ヨワ。家農を業とす。資性溫順農事を勵みしが、大正二年十二月徵募兵として海軍に

入り、同三年十月十八日高千穂沈没の際戦死す。

千葉縣千葉町三、一七一

海軍三等水兵　勳八等　吉野柳藏

明治二十六年五月三日生

父初之助、母リウ。父は船乗を業とす。幼年より温厚にして公徳の念深かりき。大正二年十二月徴兵として海軍に出身し、大正三年十月十八日高千穂沈没の際戦死す。弟梅吉陸軍兵たり。

三重縣度會郡北濱村村松二五七

海軍三等水兵　勳八等　濱口岩市

明治二十六年六月五日生

父音五郎。漁業を營む。資性温良にして至孝。大正二年十二月徴募兵として海軍に入り、翌三年十月十八日高千穂沈没の際戦死す。

神奈川縣鄰郡新治村久保一、一二二

海軍三等水兵　勳八等　峯尾半七

明治二十五年十二月二十八日生

父岩吉、母サダ。農家に生れ、進んで力業に服し、勇みて難事に當るの風あり。大正二年海軍に

採用せらるるや、喜を禁ぜず。村内受檢の壯丁を說き、津野聯隊區司令官其他の臨席を請ひて、紀念撮影をなせり。同年十一月入團の際、母の與へし絹衣を下に着し、綿衣を上に纏ひ、班長の認むる所となる。大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。禁煙を斷行して貯蓄を爲すことを青年會に建策し、容るる所となりて、今日まで繼續す。

埼玉縣入間郡芳野村鴨田二七二

海軍三等水兵　勳八等　山田四郎

明治二十六年四月十五日生

父廣吉、母ナホ。家農を業とす。能く父母に事へ、耕耘に勤みしが、大正二年十二月一日徵募兵として海軍に入り、翌三年十月十八日高千穗沈沒の難に殉す。

島根縣邇麻郡久利村大字久利一四六

海軍三等水兵　勳八等　田中全成

明治二十五年十二月二十五日生

父彥一郎、母ケフ。家農を業とす。出でて名古屋圓通寺に得度す。大正二年十二月徵兵として海軍に入る。詞藻に富み、辯舌に長じ、艦內に於て法話を試みたることあり。又洋畫を嗜み、勤務の餘暇、畫架に向ふを樂とせり。大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

福島縣石城郡錦村江栗鬼越下一

海軍三等水兵　勳八等　星不器三郎

明治二十六年六月三十一日生

父興惣平、母ツネ。家農を業とす。幼年より勤勉にして小學校在學中、毎に首席を占む。後、鐵道に勤務したりしが、大正三年六月志願兵として海軍に入り、同十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

宮城縣本吉郡戸倉村二〇三

海軍三等水兵　勳八等　菅原龜之進

明治二十九年七月十九日生

父傳內、家漁農を業とす。溫厚にして學才あり。大正二年六月父に請ひて志願兵として海軍に出身し、翌三年十月十八日乘艦高千穗と運命を共にす。

青森縣南津輕郡中郷村境松松本二六

海軍三等機關兵　勳八等　高木長一郎

明治二十六年九月二十九日生

父專太郎、母ハル。家農を業とす。出でて他家に雇はれ、能く主命を守る。大正二年十二月徵募兵として海軍に入り、翌三年十月十八日高千穗沈沒の難に殉す。

宮城縣宮城郡多賀城村市川八

海軍三等機關兵　勳八等　菊池新之助

明治二十六年四月十一日生

父亡新之丞、母キク。幼年より篤實、祖父を助けて漁業に從事す。大正二年十二月徵兵として海

軍に入り、大正三年十月十八日高千穂沈没の際戦死す。

愛知縣東春日井郡高藏寺出川四

海軍三等機關兵　勤八等　服部愛三郎

明治廿六年一月一日生

父五郎八、母ユフ。農家に生る。出でて鍛冶職の徒弟と爲り、模範職工と稱せらる。大正二年十二月徴兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穂沈没の際戦死す。

鳥縣石城郡大野村大字戸田南高柳

海軍三等機關兵　勤八等　小野佐多七

明治廿六年五月十七日生

父久五郎、母キミ。父は農を業とし、郷黨に德望あり。村會議員其他の名譽職に擧げらる。佐多七幼年より篤實にして家業を勵み、暇あれば書を繙き、武を錬り、心身の修養に努めたり。大正二年十二月徴兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穂沈没の際戦死す。兄善太郎は陸軍に入り、下士適任證を授けられたり。

愛知縣渥美郡杉山村六連三一〇

海軍三等機關兵　勳八等　河合愛次郎

明治廿六年三月廿四日生

父亡愛藏、母キミ。家農を業とす。大正二年十二月徴募兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

神奈川縣高座郡藤澤町藤澤三

海軍三等機關兵　勳八等　秋本角藏

明治二十五年五月十日生

資性沈着にして剛膽、養父甚松を扶けて石炭商を營みしが、大正二年十二月徴募兵として海軍に入り、翌三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

靜岡縣榛原郡川崎村細江一三五

海軍三等機關兵　勳八等　橋本駒藏

明治廿六年九月十五日生

父駒吉、母ソヨ。農兼漁業。二兄相踵ぎて陸軍に徴さる。其間能く父母に事へ、家業を精勵し、後顧の患なからしむ。大正二年十二月志願兵として海軍に入り、大正三年十月十八日高千穗沈沒の際戰死す。

静岡縣富士郡加島村平垣五七

海軍三等機關兵　勳八等　久保田　伊之助

明治二十六年六月二十二日生

農家に生れ、淳朴にして至孝。製材所に職工たりしが、大正二年十二月徴募兵として海軍に入り、翌三年十月十八日高千穂沈没の難に殉す。

神奈川縣足柄下郡小田原町萬年四ノ五七七

海軍三等主厨　勳八等　立野辰次郎

明治廿六年三月八日生

父勇次郎、母マン。醸造業を營む。幼年より自立の精神あり。出でて割烹店の厨夫となり、大正二年十二月採用せられて海軍に入る。大正三年十月十八日、高千穂沈没の際戦死す。

宮城縣名取郡館腰村本郷二五

海軍三等主厨　勳八等　越河甚三郎

明治二十六年一月七日生

父勘之助。家農を業とす。品行方正にして至孝。大正二年十二月徴募兵として海軍に入り、同三年十月十八日高千穂沈没の際戦死す。

大正三年十月十八日、
高千穂沈没の際戰死す。

栃木縣芳賀郡七井村大字七井一五四
海軍給仕　勳八等　萩原東一
明治　年　月　日生

大正三年十月十八日、
高千穂沈没の際戰死す。

栃木縣縣谷郡慕根村大字下大貫二八
海軍給仕　勳八等　大貫巖
明治　年　月　日生

大正三年十月十八日、
高千穂沈没の際戰死す。

巖手縣江刺郡米里村三一
海軍給仕　勳八等　菊池正朗
明治　年　月　日生

戰役公務死亡者

大正三年十月十八日、
高千穗沈沒の際戰死す。

神奈川縣横須賀市公卿町二、三三六〇
海軍給仕　勳八等　井上愛一郎
明治　年　月　日生

大正三年十月十八日、
高千穗沈沒の際戰死す。

茨城縣久慈郡諸富野村大字西野内三九
海軍剃夫　勳八等　三次勝次郎
明治　年　月　日生

大正三年十月十八日、
高千穗沈沒の際戰死す。

宮城縣亘理郡坂本町眞庭三八
海軍剃夫　勳八等　岩佐貞吉
明治　年　月　日生

大正三年十月十八日、
高千穗沈沒の際戰死す。

熊本縣宇土郡不知火村八字高良二、五八三
割烹　勳八等　嶋津淺吉
明治十三年七月一日生

海軍大佐正五位勳三等功四級

上村行輝

官歴。 明治廿二年十月廿三日海軍兵學校生徒ヲ命ス。仝廿六年十二月十九日海軍少尉候補生ヲ命シ、金剛乗組被仰付。仝廿八年三月八日任海軍少尉。仝廿八年十一月十八日、明治二十七、八年戰役ノ功ニ依リ勳六等單光旭日章及金百五十圓下賜。仝三十年六月十六日、海軍水雷術練習所乙種教程修了。仝年十二月一日任海軍中尉。仝三十一年十二月三日任海軍大尉。仝三十三年五月三十一日叙勳五等。仝卅四年九月十日英國へ出張ヲ命ス（軍艦初瀬回航委員）仝卅八年八月五日、任海軍少佐。仝年十一月三十日叙勳四等。仝三十九年四月一日、明治三十七、八年戰役ノ功ニ依リ功四級金鵄勳章及旭日小綬章下賜。仝四十一年十二月十一日韓國皇帝ヨリ贈ラレタル勳三等八卦章ヲ受領シ並ニ佩用スルコトヲ允許ス。仝四十三年三月十九日任海軍中佐。第十六艇隊司令兼艇長。大正元年十一月二十一日叙勳三等。大正四年六月三十日任海軍大佐、仝年七月一日旭日中綬章及金千七百五十圓下賜。

鹿兒島藩士上村行英の男にして、明治二年十月十九日を以て生る。幼名を操と云ふ。風姿魁偉、天資活達、事に當りて餘裕あり。明治二十二年海軍兵學校生徒と爲り、爾後、累進各般の軍職に就き、

成績常に顯著、殊に水雷術の造詣淺からず、日清戰役後、驅逐艦朝潮の回航委員として、英國へ出張中盲腸炎を疾み、醫療に依りて一時平癒を告げたるも、遂に終身の痼疾となれり。

大佐の公生涯は水雷艦艇の操縱に在りき。其獨特の妙技は儕輩を擢き、斯術の權威を以て稱讃せられ、日露戰役に際し、軍艦出雲に水雷長として偉功を奏せり。

長姉君夙に寡婦となりて家に在り。君夙に姑特を亡ひたるを以て、之に事ふること慈母の如く、令配亦能く大佐の意を體し、常に春風堂に滿つるの觀ありき。

日獨戰端を開くや、第十七驅逐隊に司令として出征し、蘊蓄の伎倆を寒風怒濤の間に試みしが、偶〻時疫の冒すあり。痼疾亦之に伴ひ、歸還して靜養せざるを得ざるに至り、大正四年七月一日遂に腰越療養所に瞑せり。

海軍少佐正六位勳四等　角田順

官歷。明治三十三年十二月十七日海軍兵學校生徒ヲ命ス。全三十六年十二月十四日海軍少尉候補生ヲ命シ、橋立乘組被仰付。全三十七年九月十日任海軍少尉。全三十八年八月五日任海軍中尉。全卅九年四月一日、明治三十七、八年戰役ノ功ニ依リ勳六等單光旭日章及金四百圓下賜。全四十一年九月廿五日任海軍大尉。全四十三年五月廿三日海軍大學校乙種教程修了、全年十二月一日海軍砲術學校高等科ヲ卒業ス。全四十四年五月廿六日叙勳五等。大正三年五月廿七日海軍大學校甲種教程修了、勞手分隊長被仰付。全年十二月一日任海軍少佐。大正四年三月一日勳四等旭日小綬章並ニ金千圓下賜。

明治十四年九月十四日を以て、石川縣上金石町に生る。父元伯、母右近。一姉一弟あり。資性豪毅果斷、幼時稍〻學業を疎んずる傾向ありしが、中學三年に至り、翻然昨非を悔い、切磋琢磨す。明治三十三年十二月海軍兵學校生徒を命ぜられ、爾來各種の軍職に就く。常に責任を重んじ、勤務に熱誠なるを以て同僚より畏敬せらる。大正四年三月一日横須賀鎮守府參謀として勤務中、公務の爲、千葉縣下湊川河口に溺死す。室ケン子、一女あり。澄子と云ふ。

海軍大尉正七位勳五等

高井元三郎

官歴。 明治三十八年十二月二日海軍兵學校生徒ヲ命ス。全四十一年十一月十二日海軍候補生ヲ命シ、阿蘇乘組被仰付。全四十三年一月十五日任海軍少尉。全四十四年八月四日海軍砲術學校普通科教程修了。全年十二月一日任海軍中尉。全年十二月二十日海軍水雷學校普通科教程修了。大正三年十二月一日任海軍大尉。大正四年十一月七日勳五等雙光旭日章及金六百圓下賜。

明治十九年六月二十六日を以て、美濃國稻葉郡木田村に生る。父惣三郎、母タツ子。安藤藩士なり。天資純潔にして忍耐力に富む。明治三十八年十二月海軍兵學校生徒を命ぜられ、累進して海軍大尉に任ず。常に下士卒を薫督するや、嚴格の間に溫き同情を加へ、熱烈なる景慕を受けたり。大正四年七月對馬乘組として戰役事務に從事中、病に罹り、同年十二月六日舞鶴海軍病院に於て永眠す。

海軍大尉正七位勳五等

三矢五郎

官歴。 明治三十七年十一月十八日海軍兵學校生徒ヲ命ス。全四十年十一月二十日海軍少尉候補生ヲ命シ、橋立乘組被仰付。全四十一年十二月二十五日、任海軍中尉。大正二年十二月一日任海軍大尉。全三年五月廿七日海軍大學校乙種教程ヲ卒ヘ、海軍水雷學校高等科學生ヲ命ス。全年十二月一日全學生被免。全四年三月一日勳五等瑞寶章並ニ金參百圓下賜。

海軍少佐三矢四郎氏の令弟にして、明治十九年一月二十一日を以て、山形縣西田川郡鶴岡町に生る。幼より敢爲の氣あり。常に年長の友に伍して嘻戯苟もせず、浮薄の徒を忌む事甚しく、其中學に在るや、輕薄兒の憚る所となる。明治四十年十一月海軍兵學校を出で、以來累進して軍務に精勵せり。大正四年三月一日驅逐艦叢雲乘組中、公務のため千葉縣下湊川河口に溺死す。妻文野、子五し。甥冬樹を養て嗣と爲す。

海軍大尉從六位勳五等　安達東三郎

官歴。 明年三十八年十二月二日海軍兵學校生徒ヲ命ス。全四十一年十一月二十一日海軍少尉候補生ヲ命シ、宗谷乗組被仰付。全四十三年一月十五日任海軍少尉。全四十四年四月二十日海軍砲術學校普通科ヲ出デ、全年八月四日海軍水雷學校普通科教程ヲ修了ス。全年十二月一日任海軍中尉。大正元年十月七日航空術研究委員ヲ命ス。全二年六月二日歐洲各國ヘ出張ヲ命ス。全三年十二月一日任海軍大尉。大正四年三月六日、大正三年戰役ノ功ニ依リ勳五等雙光旭日章及金七百圓下賜。

明治二十年四月七日、愛媛縣喜多郡天神村に生る。幼にし父母を亡ひ、長兄雲平に訓育せらる。天資豪毅にして而も細心。進取の氣象に富み、不撓不屈の概あり。明治四十一年十二月海軍兵學校を出で、大正元年十月航空術研究委員を命ぜられ、同二年歐洲各國に出張す。大尉の斯術に於ける卓越の技能を有し、佛國に於て「リオ」式飛行機の操縱を見學せし際の如き、僅に一週日にして悉く會得せりと云ふ。大正四年三月六日横須賀軍港に於て、飛行演習中墜落して職に殉る。

海軍大尉正七位勳六等功四級　武部鷹雄

官歴。 明治三十九年十一月廿四日海軍兵學校生徒ヲ命ス、全四十二年十一月十九日海軍少尉候補生ヲ命シ、宗谷乗組被仰付。全四十三年十二月十五日任海軍少尉。全四十四年十二月二十日海軍砲術學校普通科ヲ出デ、全四十五年四月二十四日海軍水雷學校普通科教程修了。大正元年十二月一日任海軍中尉。全三年三月廿三日航空術研究委員ヲ命ス。全四年三月六日任海軍大尉。大正三年戰役ノ功ニ依リ功四級金鵄勳章及勳六等單光旭日章下賜。

明治二十年七月二十七日、伯耆の古蹟なる三朝川の上流三德村に生る。父貞貫、母タカ子。幼より剛毅果斷、初一念を貫徹せずんば止まず。嘗て鳥取中學在學中、夏季休暇を以て、同志四名と共に短艇を漕ぎて日本海の怒濤を蹴り、二十二日間二百浬の遠航を試み、時に暴風と闘ひ、時に飲料

に苦み、終に目的地たる舞鶴軍港に達せしことあり。明治四十二年十一月海軍兵學校を出で、累進して海軍中尉となる。志望を以て航空隊に採用せられ、斯術の蘊奥を極め、青年飛行將校として令名あり。大正三年の役、第二艦隊に從ひて出征し、屢、青島要塞上を飛翔して偵察爆彈投下を行ひ、偉勳を建てたるが、凱旋後飛行演習中墜落して、大正四年三月六日横須賀軍港に歿す。

海軍中尉從七位勳六等

塚部忠三

官歴。 明治三十八年十二月二日海軍兵學校生徒ヲ命ス。仝四十一年十一月二十一日海軍少尉候補生ヲ命シ、阿蘇乗組被仰付。仝四十三年一月十五日任海軍少尉。仝四十四年八月四日海軍砲術學校普通科ヲ出デ、仝年十二月二十日海軍水雷學校普通科教程ヲ修了ス。八四十四年十二月一日任海軍中尉。大正四年一月五日勳六等瑞寶章並ニ金三百五十圓下賜。

父榮治、母ヨシ子。明治二十年一月十四日を以て、相摸國小田原町に生る。天資眞摯敦厚にして、理性に富む。明治三十八年十二月海軍に出身し、四十四年十二月海軍中尉に進む。劍術を嗜み、艦務の餘暇を以て道場を巡訪し、鍛練に勉むるを例とす。軍艦河内に乗組み、戰役勤務に從事中疾を獲て大正四年一月五日横須賀海軍病院に歿す。

海軍中尉正八位勳六等

田中馬次郎

官歴。 明治四十二年九月十一日海軍兵學校生徒ヲ命ス。仝四十五年七月十七日海軍少尉候補生ヲ命シ、吾妻乗組被仰付。大正二年十二月一日任海軍少尉。仝四年四月二十二日任海軍中尉。仝日、勳六等單光旭日章並ニ金四百圓下賜。

父馬之助、母イト子。明治二十三年二月十六日を以て、兵庫縣多紀郡味間村に生る。天資勇敢にして果斷、言語明快にして風丰魁偉、古武士の風あり。明治四十五年七月海軍兵學校を出で、日獨の役、南遣支隊平戸に乗組みて遠征中病に罹り、大正四年四月二十二日新嘉坡日本聖東醫院に歿す。

瞑目前十日、僚友に書を寄せて曰く、「噫、不忠の臣、病みて陸上にあり。親愛なる軍艦平戸は、武運拙き薄命の我を殘して戰場に向へり」と、其無念憶ふべきなり。

海軍軍醫大監正五位勳三等　梶浦捨松

官歴。 明治二十六年七月二十九日海軍少軍醫候補生ヲ命ス、同二十八年四月十五日任海軍少軍醫、同廿八年十二月二十六日、明治二十七、八年戰役ノ功ニ依リ勳六等瑞寶章及金百圓下賜。仝三十年十二月一日任海軍中軍醫。仝三十一年十月一日任海軍大軍醫。同三十二年五月廿四日英國ニ於テ製造セル水雷艇陽炎回航委員トシテ、英國ヘ出張ヲ命ス。仝三十四年十一月九日、明治三十三年清國事變ノ功ニ依リ勳五等瑞寶章及金二百五十圓下賜。仝年十二月十七日海軍醫學校學生ヲ命ス。仝三十五年十二月十八日仝學生被免。仝三十八年一月十二日任海軍軍醫少監。仝三十九年四月一日、明治三十七、八年戰役ノ功ニ依リ勳四等旭日小綬章及金七百圓下賜。仝年六月十日英國駐在被仰付。仝四十一年九月廿五日任海軍軍醫中監。仝年十二月三日歸朝。大正三年十月二十日任海軍軍醫大監、叙勳三等。仝日、大正三年戰役ノ功ニ依リ旭日中綬章及金千二百五十圓下賜。

尾州の人明治三年八月一日を以て、愛知縣葉栗郡大毛村に生る。資性溫厚寡言。謙讓にして人と爭はず。寛厚よく人を容る。其至孝にして交誼に厚く、又師恩に感銘すること深かりしは、知人の衷心より敬服歎賞する所なり。二十六年海軍少軍醫候補生となり、尋で二十七、八年戰役に從事して功あり。後また清國事變、日露大戰に從ふ。大正三年の役、金剛軍醫長として出征中、艦員A型「パラチフス」に感染するもの多し。大監銳意治療防遏に從事し、殆寢食を忘る。之が爲、病毒の冒す所となりしも、猶、一身を顧みず、熱心事を見る。病大に革し終に職に殉る。實に大正三年十月二十日なり。此日軍醫大監に進み、勳三等旭日中綬章を授けらる。大監、軀幹雄偉、威風堂々たり。然れども一たび之に接すれば、何人も百年知己の感をなさしむ。頭腦明晰にして强記絶倫。其軍醫學校に在るや、常に儕輩を擯き首席を獨占し、嘗て病の爲に讀書筆記を禁ぜられし際も、成績尙他に讓らざりきといふ。夫人原氏トモ子。四男あり。

海軍大軍醫正七位勳六等功五級

小原三郎

官歷。 大正元年十二月十四日任海軍中軍醫。全三年十二月四日任海軍大軍醫。全日、大正三年戰役ノ功ニ依リ功五級金鵄勳章並ニ勳六等瑞光旭日章下賜

明治十八年四月二十三日、島根縣鹿足郡津和野町に生る。弘中伊三郎の男にして、後、小原氏に養はる。大正元年海軍省依託學生として、東京帝國大學醫科大學を出で、海軍中軍醫に任ぜられ、大正三年戰役に際し、海軍重砲隊附として、青島總攻擊に從ひ、青島陷落後、臨時青島防備隊病室附を命ぜられ、傷病者治療に從事中、公務の爲、病を得て青島に客死す。此日大軍醫に進み、功五級に叙せらる。資性明敏にして最職務に忠實なり。恪謹度を過ぎ、些事と雖、苟もせず。其病死の因もまた之にあるものの如し。未室を迎へず、北堂老て益健。其訃に接するや悲んで紊れず。一子を軍國に捧げたることを榮とし、獨り鄉里に閑居し、專愛子の爲に冥福を祈るといふ。

軍艦生駒に乘組み戰役從事中、大正三年十一月二十八日、膓窒扶私に罹り、同年十二月二十日艦內に死亡す。

山口縣大島郡平野村二、一五五

海軍機關兵曹長　從七位勳五等　中原清之進

明治　年　月　日生

大正三年九月七日八雲に乘組み戰役勤務從事中、公務の爲病に罹り、大正四年六月二十五日、鄉里に死す。

福島縣相馬郡大野村大坪字山神前一〇七

海軍上等兵曹　勳六等　青田辰紀

明治十三年十月二十六日生

臨時南洋群島防備隊ポナペ守備隊サクイ分遣隊勤務中、大正四年一月一日公務の爲傷痍を受け同月六日死亡。

嚴手縣東磐井郡黃海村字西深萱一七四

海軍上等兵曹　勳七等　熊谷春次郎

明治　年　月　日生

利根に乘組み勤務中疾病に罹り、大正四年四月八日、佐世保海軍病院に死す。

熊本縣玉名郡小天村四、〇二八

海軍上等機關兵曹　勳七等　伊谷藤駒

明治十三年十月二十日生

病院船八幡丸に乗組み戰役勤務從事中、大正四年一月十四日公務の爲め吳軍港に溺死す。

驅逐艦櫻に乗組み戰役從事中、大正三年八月二十五日五島の西方にて激浪に攫はれ溺死す。

馬公防備隊に勤務中、大正三年九月十三日、公務の爲め負傷、同年同月十三日馬公要港部病室にて死す。

水雷艇鵜乗組中、大正四年九月十八日支那廟島に於て海賊討伐に從事中、腹部貫通銃創を受け、同月十九日旅順要港部病室に死す。

海軍看護師　勳七等　澤田要

愛知縣知多郡師崎町大字天井三三〇

明治　年　月　日生

海軍一等兵曹　勳七等　菅原繁司

嚴手縣西磐井郡眞滝村眞柴一四八

明治十八年七月三日生

海軍一等兵曹　勳七等　中村永十郎

三重縣一志郡八幡村大字奥津一、六九七

明治　年　月　日生

海軍一等兵曹　勳七等　大岩根宗一

宮崎縣北諸縣郡都城町大字一長飯四、三〇一

明治　年　月　日生

運送船神通丸に乗組み戰役從事中、大正三年九月二十日海中に墜落し、塔連島南側に溺死す。

軍艦肥前に乗組み勤務中、公務の爲負傷を負ひ、大正三年十二月十一日パナマ共和國ピナヌ灣に死す。

南遣支隊、山風に乗組み、戰役從事中、大正三年十一月九日海中に墜落して溺死す。

軍艦生駒に乗組み戰役從事中、大正三年十一月十一日公務の爲、頭部及胸部に負傷し、香港に死す。

海軍一等機關兵曹　勳七等　淵靜

大分縣速見郡石垣村大字東山二ノ五六九

明治十七年十一月十五日生

海軍二等兵曹　勳七等　小山田三吉

福岡縣筑紫郡山家村二、九七七

明治　年　月　日生

海軍二等兵曹　勳七等　德江庫太

群馬縣勢多郡木瀬村大字下增田一一

明治二十二年六月十日生

海軍二等兵曹　勳七等　三田村德太郎

滋賀縣東淺井郡朝日村字海老江四一一

明治十九年十二月八日生

掃海船第三西京丸に乗組み勤務中、公務の爲め疾病に罹り、大正四年一月七日、佐世保海軍病院に死す。

驅逐艦櫻に乗組み戰役從事中、大正三年八月二十五日激浪に攫はれ、五島の西方にて溺死す。

軍艦見島に乗組み戰役從事中、大正三年九月廿七日膈窒扶私に罹り、同年十月廿一日佐世保病院に死す。

子日に乗組み戰役に從事中。大正三年十月二十四日激浪に攫はれ、薫家灣に溺死す。

海軍二等機關兵曹　勳七等　深川善慈

宮崎縣北諸縣郡庄内村一三、九二二

明治　年　月　日生

海軍三等兵曹　勳七等　渡邊信之助

福島縣石城郡草野村大字馬目字貫銀田一三

明治十九年一月十五日生

海軍三等兵曹　勳八等　千野辨次郎

長野縣東筑摩郡松本村筑摩五、三〇二

明治二十三年七月十七日生

海軍三等兵曹　勳八等功七級　三谷茂平

香川縣綾歌郡坂本村東坂元三、五八八

明治二十三年十月五日生

海軍重砲隊に屬し戰役從事出征中、胸腹膜結核に罹り、大正三年十二月二十二日佐世保病院に死す。

鞍馬に乗組み、大正四年四月二十五日廣島灣に於て勤務に從事中負傷し、吳海軍病院にて死す。

平戸に乗組み勤務中、大正四年八月十九日、新嘉坡「ギングスドック」に於て公務の爲に傷さて死す。

大正四年三月一日驅逐艦叢雲に乗組み執務中、千葉縣下湊川河口に於て溺死す。

海軍三等兵曹　勳八等功七級　塚田廣吉

長野縣上水内郡鬼無里村六六二

明治　年　月　日生

海軍三等兵曹　勳八等　伊東信彦

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町矢畑一一〇

明治二十二年七月十七日生

海軍三等兵曹　勳八等　佐々木直一

廣島縣山縣郡加計町大字加計耕二、四〇四

明治二十四年十二月二十四日生

海軍三等兵曹　勳七等　宮内寧

茨城縣稻敷郡太田村大字下太田一六五

明治二十二年十二月十二日生

横須賀海兵團附として戰役勤務に從業中、大正四年三月六日公務の爲、横須賀軍港に於て死亡す。

軍艦千歳に乘組み戰役に從事中、公務の爲め疾病に罹り、大正四年八月十九日北緯三十三度五十五分三十秒東經百六十三度二十分三十秒の地點航行中死亡す。

軍艦淺間に乘組み戰役從事中、公務の爲、疾病に罹り、大正四年八月十日、北緯二十八度三十七分四十五秒、西經百六十九度六分の地點航行中死亡す。

嚴島に乘組み勤務に從事中、大正四年四月十五日公務の爲、膠州灣外大公島附近に溺死す。

三重縣多氣郡五ヶ谷村古江六六

海軍三等兵曹　勳八等功七級　柳瀨久之丞

明治二十三年三月三十日生

廣島縣豐田郡大草村大字大草二一一

海軍三等兵曹　勳八等　岡野佐太郎

明治　年　月　日生

香川縣大川郡造田村大字宮西三六三

海軍三等兵曹　勳八等　松原春衛

明治　年　月　日生

山口縣玖珂郡坂上村大字大根川二〇一

海軍三等兵曹　勳八等　安田寅吉

明治二十三年七月十日生

磐手に乘組み戰役從事中、大正三年九月九日、海中に墜落し、八口浦に溺死す。

沖島に乘組み戰役從事中、大正三年十月十七日、戰地にて赤痢病に罹り、同年十月三十日吳病院に死す。

驅逐艦朝霧に乘組み戰役勤務に從事中、大正四年六月三十日、公務の爲、對馬西水道に於て傷死す。

軍艦明石に乘組み戰役勤務に從事中、大正四年六月九日公務の爲、疾病に罹り、同月二十五日、馬公要港部病室に於て死す。

鹿兒島縣日置郡上伊集院村石行二、七一六

海軍三等機關兵曹　勳七等　飯牟禮　屯

明治二十八年八月十九日生

鹿兒島縣川邊郡東南方村枕崎二、九一〇

海軍三等機關兵曹　勳八等　上釜政助

明治二十五年十月十七日生

熊本縣八代郡和鹿島村大字綱道一、四六七

海軍三等機關兵曹　勳八等　鎌田房吉

明治　年　月　日生

兵庫縣三原郡松帆村ノ内高田村五九一

海軍三等機關兵曹　勳八等　三宅角平

明治　年　月　日生

臨時南洋群島防備隊ヤルート守備隊勤務中、大正四年七月二日、流行病に罹り、同月十九日死亡す。

大正四年九月四日千歳に乗組み勤務に従事中、公務の爲、疾病に罹り、同二十日北緯三五、西經一四一度一七分地點航行中に死す。

河内に乗組み戰役に従事中、大正三年九月九日、公務の爲、重傷を負ひ、同月十一日佐世保病院にて死す。

比叡に乗組み戰役従事中、大正三年十月五日、頭蓋複雜骨折の爲、古志島沖に死す。

軍艦伊吹に乗組み戰役従事中、大正三年九月十二日公務の爲め腹部に負傷して、艦内に死す。

大正三年九月十五日脚氣及左足背結締織炎に罹り、同年十月十六日八幡丸に死す。

軍艦日進に乗組み戰役に従事中、公務の爲め疾病に罹り、大正四年三月十五日、英領フイジー島スヴア殖民地病院に於て死亡す。

軍艦音羽に乗組み戰役に従事中、大正四年七月十九日、馬公より佐世保に向つて航行中、公務の爲、溺死す。

茨城縣新治郡丸東村大字上ノ室六四〇
海軍三等機關兵曹　勳七等　關本健治
明治　年　月　日生

愛媛縣伊豫郡佐礼谷村一九三
海軍三等厨宰　勳八等　柏崎定市
明治二十五年一月一日生

農手縣西磐井郡山目村赤萩五九
海軍一等水兵　勳八等　高橋貞一
明治二十二年十月十日生

熊本縣上益城郡津森村大字杉堂一一六
海軍一等水兵　勳八等　森川新太郎
明治　年　月　日生

愛媛縣温泉郡和氣村大字和氣濱二七
海軍一等水兵　勳八等　芳野青次
明治十九年一月十三日生

愛媛縣北宇和郡高近村大字近家一二〇
海軍一等水兵　勳八等　山本萬四郎
明治二十四年九月一日生

富山縣射水郡守山村五十里村二〇五
海軍一等水兵　勳八等　浦野丹藏
明治二十三年三月廿一日生

茨城縣眞壁郡下妻村大字下妻乙二八〇合併地二七九
海軍一兵水兵　勳八等　萩原元吉
明治　年　月　日生

軍艦筑波に乗組み戦役に従事中、公務の爲、病疾に罹り、大正四年九月十三日、横須賀に死亡す。

軍艦薩摩に乗組み戦役勤務に従事中、公務の爲、疾病に罹り、大正四年三月十七日、郷里に於て死亡す。

驅逐艦叢雲に組み戦役勤務に従事中、大正四年三月一日、公務の爲、千葉縣下湊川河口に於て溺死す。

驅逐艦叢雲に乗組み戦役勤務に従事中、大正四年三月一日、公務の爲、千葉縣下湊川河口に於て溺死す。

静岡縣安倍郡入江町入江一六一
海軍一等水兵　勳八等　河内兼太郎
明治　年　月　日生

福岡縣三池郡銀水村大字倉永三、五五六
海軍一等水兵　勳八等　杉野慷三郎
明治　年　月　日生

福島縣大沼郡高田町字高田甲二、七六二
海軍一等水兵　勳八等　杉山幸吉
明治　年　月　日生

宮城縣玉造郡岩出山町四七
海軍一等水兵　勳八等　齋藤榮之助
明治二十二年一月十一日生

驅逐艦叢雲に乗組み戦役勤務に従事中、大正四年三月一日、公務の爲、千葉縣下湊川河口に於て溺死す。

驅逐艦叢雲に乗組み戦役勤務に従事中、大正四年三月一日、公務の爲、千葉縣下湊川河口に溺死す。

運送船高崎に乗組み戦役勤務に従事中、大正四年五月十一日、佐世保軍港に於て、公務の爲傷死す。

水雷艇第七十三號に乗組み戦役勤務に従事中、大正四年[illegible]月七日公務の爲、支那黄海に於て溺死す。

宮城縣栗原郡一迫村眞坂六七
海軍一等水兵　勳八等　栗原要
明治　年　月　日生

宮城縣加美郡小野田村西小野田六七
海軍一等水兵　勳八等　早坂貞助
明治二十五年十二月一日生

福島縣石城郡内郷村大字綴字町ノ内六五
海軍一等水兵　勳八等　沼田留吉
明治二十一年四月五日生

新潟縣西蒲原郡中野小屋村大字中野小屋四二
海軍一等水兵　勳八等　長谷川孫市
明治二十四年七月二十日生

軍艦嚴島に乘組み戰役勤務に從事中、大正四年四月十五日公務の爲、支那膠州灣外大公島附近に於て溺死す。

臨時南洋群島防備隊ヤルート守備勤務中、大正四年三月六日戰地流行病に罹り同年六月十四日鹿兒島丸に死亡す。

臨時南洋備防隊に屬し勤務中、大正四年三月十八日公務の爲、疾病に罹り、同年四月二十八日横須賀海軍病院に死す。

明石に乘組み戰役に從事中、大正三年八月二十四日、全身熱傷を負ひ、翌二十五日旅順要港部病室に死す。

大阪府泉南郡山直上村大字山直中二八

海軍一等水兵　勳八等　平松仙治

明治二十四年一月五日生

巖手縣和賀郡十二鍋村大字十二ケ五

海軍一等水兵　勳八等　薄衣啓藏

明治　年　月　日生

巖手縣氣仙郡吉濱村乙一一四

海軍一等水兵　勳八等　水上助七

明治二十四年六月三十日生

廣島縣比婆郡東城町大字川東五七

海軍一等機關兵　岩田一吉

明治二十二年四月七日生

磐手に乘組み戰役從事中、大正三年九月九日海中に墜落し、八口浦に溺死す。

千歳に乘組み戰役從事中、赤痢病に罹り、大正三年十月十五日佐世保病院に死す。

橋立に乘組み中、大正三年十二月三十一日公務の爲、重傷を負ひ、横須賀に死す。

軍艦肥前に乘組み戰役に從事中、大正四年二月八日公務の爲、熱傷を負ひ、同月十日北緯三十度二十分東經百四十八度十分の地點を航行中死亡す。

大分縣南海部郡下入津村大字竹野浦河九〇一

海軍一等機關兵　勳八等　河野吉夫

明治二十四年九月十八日生

石川縣鹿島郡赤蔵村字高田ノ部五

海軍一等機關兵　勳八等　岡助之辰

明治　年　月　日生

茨城縣東茨城郡西郷村大字上間内八四四

海軍一等機關兵　勳八等　小瀧延秀

明治二十四年一月七日生

長崎縣南高來郡島原村一、五〇八

海軍一等機關兵　勳八等　石田重康

明治二十七年四月廿四日生

驅逐艦陽炎に乗組み戰役に從事中、公務の爲、疾病に罹り、大正三年五月十日郷里に於て死亡す。

軍艦沖島に乗組み戰役に從事中、公務の爲、疾病に罹り、大正四年六月十八日郷里に死亡す。

軍艦磐手に乗組み戰役に從事中、公務の爲、疾病に罹り、大正四年八月三十一日郷里に死亡す。

水雷艇千鳥に乗組み戰役公務に從事中、大正四年二月二十六日、公務の爲、敦賀港に溺死す。

熊本縣八代郡八代町九二五

海軍一等機關兵　勳八等　津山又吉

明治二十年五月廿三日生

長崎縣北高來郡湯江村大字湯江一〇三

海軍一等機關兵　勳八等　川田辰雄

明治　年　月　日生

鹿兒島縣出水郡東長島村鷹巢三、八九八

海軍一等機關兵　勳八等　森文吾

明治　年　月　日生

岐阜縣可兒郡中村中三三四

海軍一等機關兵　勳八等　伊左治萬平

明治二十四年九月四日生

水雷艇千鳥に乗組み戰役勤務に從事中、大正四年二月二十六日、公務の爲、敦賀港に溺死す。

水雷艇千鳥に乗組み戰役勤務に從事中、大正四年二月二十六日、公務の爲、敦賀港に溺死す。

工作船關東丸に乗組み戰役に從事中、公務の爲、疾病に罹り、大正四年四月十八日、佐世保海軍病院に死亡す。

軍艦出雲に乗組み戰役に從事中、大正四年三月十五日、流行病に罹り、同年四月六日墨西哥、布哇間航行中死亡す。

新潟縣西頸城郡上早川村大字土倉二五

海軍一等機關兵　勳八等　關原保與

明治二十四年十一月三日生

兵庫縣養父郡入鹿町ノ内入鹿村一、六四九

海軍一等機關兵　勳八等　谷垣治作

明治二十五年一月七日生

宮城縣登米郡米川村大字狼河原三三一

海軍一等機關兵　勳八等　金野三男

明治二十五年一月一日生

鹿兒島縣日置郡日置村日置一一一

海軍一等看護手　勳七等　山口友吉

明治十八年三月廿二日生

櫻に乗組み戰役從事中、大正三年八月廿五日激浪に攫はれ、五島の西方に溺死す。

春日に乗組み中、大正三年九月七日香港にて公務により左頰部に負傷し、同月十七日馬公要港部病室に死す。

第五特別陸戰隊に屬し、戰役從事中、大正三年十二月二十七日ヤルート島にて、胸膜心嚢炎に罹り、ポナペ港にて死去す。

軍艦鞍馬に乗組み戰役勤務に從事中、大正四年二月五日、横須賀軍港に於て公務の爲、傷痍を受け、同日横須賀海軍病院に於て死亡す。

岐阜縣羽島郡下羽栗村圓城寺一三二

海軍二等水兵　勳八等　岩田伊三郎

明治二十四年六月二十五日生

和歌山縣東牟婁郡那智村大字天滿七三五

海軍二等水兵　勳八等　田中又七

明治二十五年十二月十日生

嚴手縣九戸郡長内村大字長内

海軍一等水兵　勳八等　森小與手松

明治二十五年九月三日生

嚴手縣東磐井郡奥玉村字吉立二六二

海軍二等水兵　勳八等　藤野豐次郎

明治　年　月　日生

軍艦薩摩に乗組み戰役勤務に從事中、大正四年八月十五日公務の爲、横須賀軍港に於て溺死す。

掃海船第五長門丸に乗組み戰役に從事中、公務の爲疾病に罹り大正三年十一月廿七日佐世保海軍病院に死す。

磐手に乗組み勤務中、公務の爲、疾病に罹り、大正四年六月十九日、佐世保海軍病院に死す。

軍艦平戸に乗組み戰役に從事中、大正四年八月十九日、公務の爲め新高坡「キングスドック」に傷死す。

長崎縣北松浦郡鷹島村六五

海軍二等水兵　勳八等　松原小太郎

明治　年　月　日生

長崎縣南松浦郡三井樂村八五

海軍二等水兵　勳八等　岡喜藏

明治二十四年三月十八日生

熊本縣飽託郡濱田村一、七四六

海軍二等水兵　勳八等　奥田豐松

明治二十六年八月二十六日生

和歌山縣海草郡和歌浦町九八九

海軍二等水兵　勳八等　津野吉三郎

明治　年　月　日生

軍艦出雲に乗組み戰役に從事中、大正三年十二月二十八日、流行病に罹り、大正四年一月十八日、墨西哥國太平洋沿岸航海中死亡す。

軍艦出雲に乗組み戰役に從事中、公務の爲、疾病に罹り、大正四年六月三十日免役となり、同九月七日郷里に於て死亡す。

軍艦嚴島に乗組み戰役勤務に從事中、大正四年四月十五日、公務の爲、支那膠州灣外大公島附近に於て溺死す。

驅逐艦海風に乗組み戰役に從事中、大正三年八月二十四日、激浪に攫はれ、五島の西方にて溺死す。

熊本縣菊池郡花房村大字出田二、六三三

海軍二等水兵　勳八等　奈田武夫

明治二十七年十月廿六日生

大分縣日田郡五馬村大字五馬市八五二

海軍二等水兵　勳八等　梅木就太

明治　年　月　日生

兵庫縣氷上郡葛野村ノ内新庄村九九

海軍二等水兵　勳八等　藤林勝治郎

明治二十六年四月十八日生

栃木縣那須郡伊王野村大字沼野井二九

海軍二等機關兵　勳八等　後藤仲久

明治二十五年二月四日生

軍艦千歳に乗組み戰役に從事中、公務の爲、疾病に罹り、大正四年五月二十八日、同艦に於て死す。

山口縣厚狹郡厚西村大字厚狹四九

海軍二等機關兵　勳八等　藤野昌太郎

明治　年　月　日生

軍艦出雲に乗組み戰役に從事中、公務の爲、疾病に罹り、大正四年七月十一日郷里に死す。

熊本縣球磨郡須惠村二二六

海軍二等機關兵　勳八等　恒松征清

明治二十七年九月五日生

水雷艇千鳥に乗組み戰役に從事中、大正四年二月二十六日、公務の爲、敦賀港に溺死す。

新潟縣岩船郡女川村大字桂

海軍二等機關兵　勳八等　稲家幸吉

明治二十八年七月十一日生

大正三年十一月二十一日、横須賀海兵團勤務中、公務の爲、海中に墜落して溺死す。

青森縣南津輕郡尾崎村大字新屋二〇

海軍二等主厨　葛西伊策

明治　年　月　日生

大正三年九月九日、磐手に乗組み戰役に從事中、海中に墜落して、八口浦に溺死す。

軍艦千歳に乗組み戰役に從事中、公務の爲、疾病に罹り、大正三年十二月二十五日、旅順要港部病室に於て死亡す。

大正三年八月二十五日、驅逐艦山風に乗組み戰役に從事中、激浪に攫はれ、五島の西方に溺死す。

大正三年八月二十九日、出雲に乗組み、北米太平洋沿岸航行中、公務の爲、腰椎挫傷を負ひ、同年九月十七日英領加奈陀「ジュビリエ」病院に死す。

大正三年十二月三日、千代田に乗組み馬尼剌より馬公に向ひ航行中、熱射病に罹り、精神に異常を來し、海中に墜落して死す。

軍艦淺間に乗組み戰役に從事中、大正四年五月二十日、公務の爲、疾病に罹り、同年六月四日、墨西哥國サンバルトロメ灣に於て死す。

軍艦矢矧に乗組み戰役に從事中、大正三年十月八日、南洋航行の際、焚火作業に服し、酷熱のため精神に異狀を來し、海中に墜落して溺死す。

戰役に從事中、赤痢病に罹り、大正三年十月十六日丹後艦内に死す。

沖縄縣那覇區若狭町一ノ六二
海軍三等水兵　勳八等　山城正偉
明治二十六年二月一日生

秋田縣南秋田郡北浦町安全寺内安全寺一一
海軍三等水兵　勳八等　安田利之助
明治二十六年九月十七日生

埼玉縣北足立郡大石村大字井戸木四九四
海軍三等機關兵　勳八等　野口米藏
明治二十五年四月廿一日生

佐賀縣神崎郡三田川村大字箱川一、七三二
海軍三等機關兵　勳八等　生島森作
明治二十八年四月廿五日生

大阪府西成郡豐崎町北長柄七〇
海軍三等機關兵　勳八等　清水幸太郎
明治二十九年九月五日生

德島縣板野郡撫養町南濱七八〇
海軍三等機關兵　勳八等　田中國松
明治二十九年六月七日生

奈良縣宇陀郡室生村大字下田口九八
海軍三等機關兵　勳八等　大林貴一
明治二十七年七月二日生

愛媛縣西宇和郡千丈村大字郷一番耕地一、五九三
海軍四等水兵　勳八等　山本成吉
明治二十八年十二月三日生

軍艦比叡に乗組み戰役勤務に從事中、大正四年五月二十二日、公務の爲、廣島灣に於て傷痍を受け同月三十一日、同艦に於て死す。

軍艦千歲に乗組み戰役に從事中、大正四年三月二十一日、公務の爲、疾病に罹り、同年五月三十一日、横須賀海軍病院に於て死亡す。

軍艦最上に乗組み戰役に從事中、公務の爲、疾病に罹り、大正四年三月十日免役となり、同年十二月十日、郷里に於て死亡す。

軍艦生駒に乗組み戰役に從事中、大正三年十一月二十日、戰地流行病に罹り、大正四年一月四日、病院船八幡丸に於て死亡す。

長崎縣北松浦郡大島村大字大島六二四
海軍四等水兵　柴山重作
明治二十七年一月七日生

德島縣板野郡大津村段關二四
海軍四等水兵　勳八等　關原清太郎
明治二十七年十二月二日生

長崎縣南高來郡土黒村二ノ二五六
海軍四等水兵　勳八等　林繁雄
明治　年　月　日生

廣島縣雙三郡作木村大字森山東三四
海軍四等水兵　勳八等　藤倉政市
明治二十八年十月廿五日生

大正四年七月十八日、敷島に乗組み、長崎縣志々岐埼沖航行中、公務の爲、負傷して死す。

軍艦矢矧に乗組み戰役に從事中、大正三年十月十八日、南洋航行の際焚火作業に服し、酷熱の爲、精神に異狀を來し、海中に墜落して死す。

病院船八幡丸に乗組み戰役勤務に從事中、大正四年一月十四日、公務の爲、吳軍港に於て溺死す。

病院船八幡丸に乗組み戰役勤務に從事中、大正四年一月十四日、公務の爲、吳軍港に溺死す。

福岡縣三池郡三川町大字三里四八四ノ二
海軍四等機關兵　沼田米藏
明治二十七年八月二十五日生

兵庫縣氷上郡新井村ノ内北山村四三
海軍四等機關兵　勳八等　村上熊太郎
明治二十八年一月七日生

廣島縣甲奴郡御嶽村大字井永六九
海軍傭看病夫　勳八等　岡田伊作
明治三十年三月五日生

廣島縣吳市大字萩山田村五、三八〇
海軍傭看病夫　勳八等　荒川嘉一郎
明治二十四年四月二日生

工作船關東乘組中、大正四年五月十二日墨西哥沿岸サンパートロルメー灣に於て遭難軍艦淺間排水作業に從事中、公務の爲めに死す。

工作船關東乘組中、大正三年九月二十八日、支那勞山灣に於て公務の爲、疾病に罹り、同年十月七日、佐世保海軍病院に死亡す。

工作船關東乘組中、大正四年十月四日、英領加奈陀エスカイモルト港に於て、遭難軍艦淺間潛水作業に從事中、窒息死亡す。

海軍職工	中川政次郎	神奈川縣横須賀市汐入二九三 明治　年　月　日生
海軍職工	長谷川又七	埼玉縣北足立郡小谷村大字前砂三五 明治二十三年五月廿一日生
海軍職工	川田五市	廣島縣吳市大字二川町一、〇五六 明治十五年六月十日生

大正五年十月十五日印刷
大正五年十月十八日發行

（忠魂錄）
定價金壹圓

海軍水交社藏版

發行者　和田利彦　東京市日本橋區通四丁目五番地
印刷者　仙葉元太郎　東京市京橋區西紺屋町廿七番地
印刷所　株式會社秀英舍　東京市京橋區西紺屋町廿七番地

版權所有

發賣頒布所
東京市日本橋區通四丁目
春陽堂書店
振替東京一六一七

348
397

終